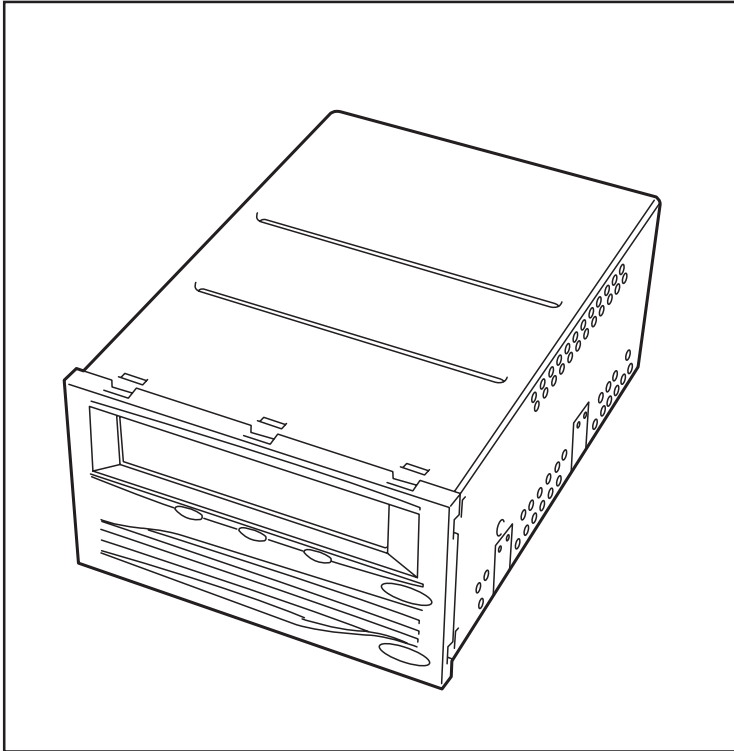


# NEC



## N8151-38 内蔵SDLT

取扱説明書

856-850102-A  
2001年 8月 初版

### ご注意

製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。  
本書は熟読の上、大切に保管してください。

## 商標について

©2001 Quantum Corporation. All rights Reserved.

Quantum、Quantumのロゴ、DLTtape、DLTtapeのロゴ、Super DLTtapeおよびSuper DLTtapeのロゴはQuantum社の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

## 海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

この取扱説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

## ⚠ 使用上のご注意 ～必ずお読みください～

本装置を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

### 安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。

本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。



**警告**

指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。



**注意**

指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。


	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (接触禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜け)

(本書での表示例)




注意を促す記号	危険に対する注意の内容	危険の程度を表す用語
	電源がONのまま取り付け・取り外しをしない 基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。	<b>注意</b>

# 本書および警告ラベルで使用する記号とその内容



## 注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

## 行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本装置を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		




## 行為の強制




	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。
---	--	---	--

# 安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

## 全般的な注意事項

 <b>警告</b>	
	<p><b>煙や異臭、異音がしたまま使用しない</b></p> <p>万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本装置を取り付けた装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。</p>
	<p><b>針金や金属片を差し込まない</b></p> <p>通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。</p>

 <b>注意</b>	
	<p><b>海外で使用しない</b></p> <p>本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。</p>
	<p><b>装置内に水や異物を入れない</b></p> <p>装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに本装置を取り付けた装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社に連絡してください。</p>

## 電源・電源コードに関する注意事項

### 警告



#### ぬれた手でDCケーブルを持たない

ぬれた手でDCケーブルの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。

### 注意



#### 電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本装置の取り付け・取り外しの際やケーブルの接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電するおそれがあります。



#### 中途半端に差し込まない

DCケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



#### 指定以外の接続をしない

DCケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。



#### 破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。



#### 指定以外のケーブルを使用しない

接続に使用するケーブルは当社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。

## 設置・移動・保管・接続に関する注意事項

### 注意



#### 通気孔をふさがない

本装置の前面にある通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。



#### プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

インタフェースケーブルの取り付け／取り外しは本装置を取り付ける装置の電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。



#### 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

インタフェースケーブルは、NECが指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。

## お手入れに関する注意事項

### 警告



#### 自分で分解・修理・改造はしない

本装置の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。



#### プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、本装置を取り付けた装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま装置内の部品に触ると感電するおそれがあります。

### 注意



#### 中途半端に取り付けない

DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。



## 運用中の注意事項

### 注意



#### カートリッジ挿入口に手を入れない

カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。



#### 雷がなったら触らない

雷が鳴りだしたら、DCケーブルに触れないでください。感電の原因となります。



#### ペットを近づけない

本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。



#### 近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない

本装置のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。

# 目次

---

---

<b>⚠ 使用上のご注意 ～必ずお読みください～</b> .....	<b>i</b>
安全にかかわる表示について .....	i
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容 .....	ii
安全上のご注意 .....	iii
全般的な注意事項 .....	iii
電源・電源コードに関する注意事項 .....	iv
設置・移動・保管・接続に関する注意事項 .....	v
お手入れに関する注意事項 .....	vi
運用中の注意事項 .....	vii
<b>はじめに</b> .....	<b>xi</b>
本書の構成について .....	xii
本文中の記号について .....	xiii
<b>第1章 内蔵SDLTについて</b> .....	<b>1</b>
内蔵SDLTの概要 .....	1
梱包箱の中身 .....	2
各部の名称と機能 .....	3
装置前面 .....	3
装置背面 .....	4
ステータスLED .....	5
イジェクト・ボタン .....	6
取り扱い上の注意 .....	7
本体について .....	7
データカートリッジについて .....	7
装置の譲渡と廃棄について .....	7
<b>第2章 セットアップ</b> .....	<b>9</b>
Step1 内部設定スイッチの確認 .....	9
SCSI IDの設定 .....	9
ターミネータパワーの設定 .....	11
Step2 基本処理装置／デバイス増設ユニットへの取り付け .....	12
Step3 BIOSの設定 .....	14

<b>第3章 使用方法</b> .....	<b>15</b>
電源のON/OFF .....	15
データカートリッジの挿入 .....	15
データカートリッジの取り出し .....	16
<b>第4章 データカートリッジ</b> .....	<b>17</b>
カートリッジテープについて .....	17
カートリッジテープの取り扱い上の注意 .....	17
カートリッジテープの書き込み保護スイッチ .....	18
ラベル／バーコードラベルの取り付け位置 .....	19
使用禁止基準 .....	20
寿命 .....	20
重要なデータの保存について .....	20
データの3世代管理について .....	21
データカートリッジの保管について .....	21
傷んだテープについて .....	21
<b>第5章 日常の保守</b> .....	<b>23</b>
クリーニング .....	23
輸送について .....	23
<b>第6章 故障かな?と思ったときは</b> .....	<b>25</b>
取り付け後のトラブルシューティング .....	26
その他の確認事項 .....	26
保守を依頼するときは .....	26
<b>付録A 仕様</b> .....	<b>27</b>
装置本体 .....	27
データカートリッジ .....	28
<b>付録B 運用状況お客様記入シート</b> .....	<b>29</b>



# はじめに

---

N8151-38 内蔵SDLTは、Express5800シリーズのサーバ/ワークステーションで使用できる内蔵型のテープバックアップ装置です。

本書は、本装置の取り扱いに関する手引き書です。本装置の取り付けや日常の取り扱い、保守をする際にご覧ください。

また、「故障かな?」を思ったときにもご覧ください。

本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管しておいてください。

# 本書の構成について

本書の構成と各章の概略について説明します。本装置に関することで知りたいことがあるときなどにご利用ください。

**第1章 内蔵SDLTについて** — 本装置の特長、ならびに梱包内容や各部の名称について説明しています。また、取り扱いや保管の際の注意事項が記載されています(装置を安全に取り扱うための注意事項については巻頭の説明をご覧ください)。

**第2章 セットアップ** — 本装置を取り付けて、使用できる状態にするまでの手順について順を追って説明しています。手順に従って正しく取り付けてください。

**第3章 使用方法** — 本装置の電源をON/OFFにする方法やデータカートリッジテープをセットする方法について説明しています。またデータカートリッジへの読み込み/書き込みテストの方法についても説明しています。

**第4章 データカートリッジ** — 本装置で使用するデータカートリッジテープの取り扱い方法や取り扱い上の注意事項について説明しています。

**第5章 日常の保守** — 常にベストな状態で本装置を使用するためのクリーニングの方法や装置の移動・保管の際の注意事項について説明しています。

**第6章 故障かな?と思ったときは** — 本装置が正しく動作しなくなったときは、故障を疑う前にまずこの章で説明している内容について確認してください。それでも正しく動作しないときは、保守サービス会社に保守を依頼してください。

**付録A 仕様** — 装置本体とデータカートリッジテープの仕様が記載されています。

**付録B 運用状況お客様記入シート** — 装置本体やデータカートリッジテープなどの使用状況や取り付けているシステムの構成情報を記入するメモ欄です。記入した内容は保守や修理の際に有用な情報となります。ご利用ください。

# 本文中の記号について

本文中では、次の記号を使って運用上の注意やヒントを示しています(安全上の注意事項に関する記号については巻頭の説明をご覧ください)。



装置の取り扱いや、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。



知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。





# 第1章 内蔵SDLTについて

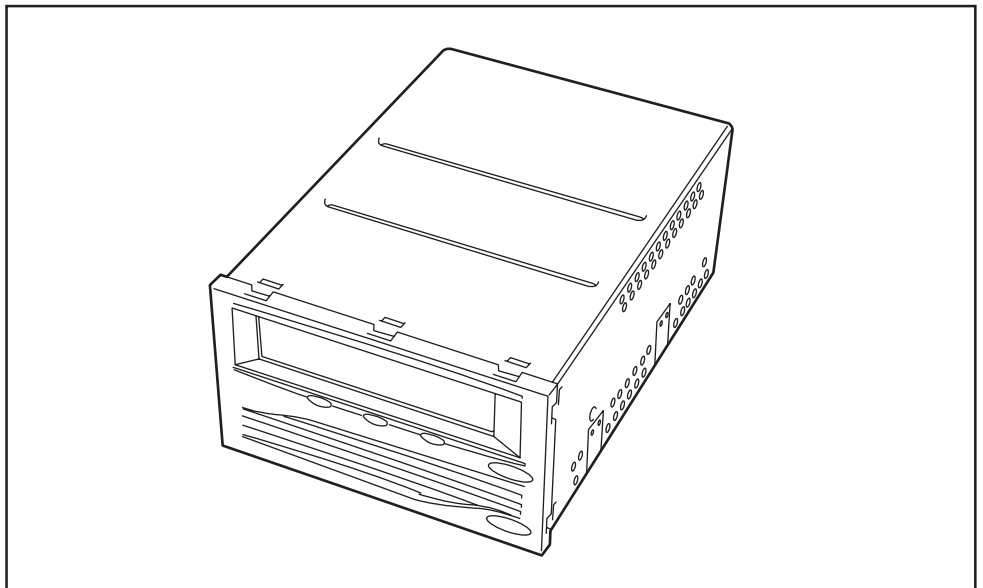
---

N8151-38 内蔵SDLTの取り付けや取り扱いをする前に知っておいていただきたいことについて説明します。

## 内蔵SDLTの概要

N8151-38 内蔵SDLTは、サポート対象ホストに接続してホストの追加ストレージを提供する高性能/大容量のデータ記憶装置です。本装置は、ファイルの検査やアーカイブだけでなく、無人バックアップを実行するように設計されており、次の機能を備えています。

- カートリッジあたり110GBの記憶容量(2:1圧縮時には220GB、カートリッジEF-2425使用時)
- 11MB/秒のデータ転送速度(2:1圧縮時には22MB)
- 最大80MB/秒のバースト・データ転送速度
- DLTtape IV(EF-2413G)を使用するDLT4000、DLT7000、DLT8000フォーマットのデータ読み取りが可能

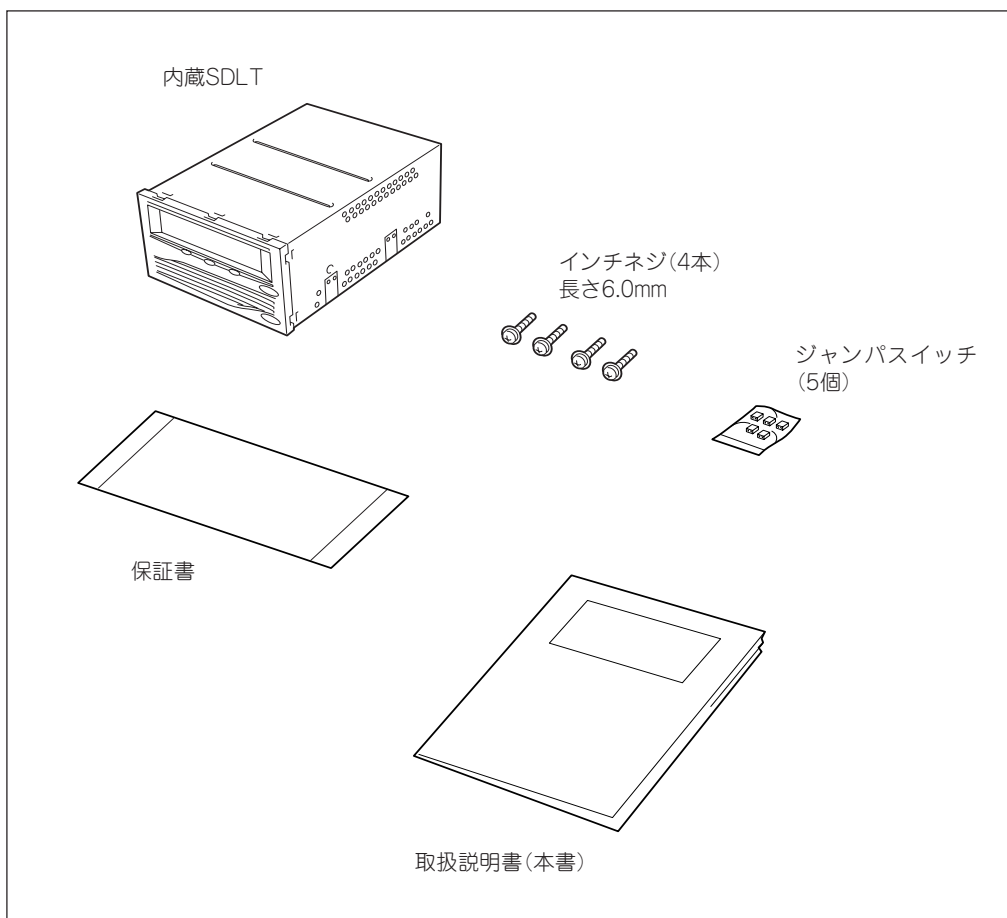


# 梱包箱の中身

箱を開けて、まず必要な部品が揃っているか確認してください。万一、足りないものがあったり、破損しているものがあったりしたときは、お買い求めの販売店までご連絡ください。



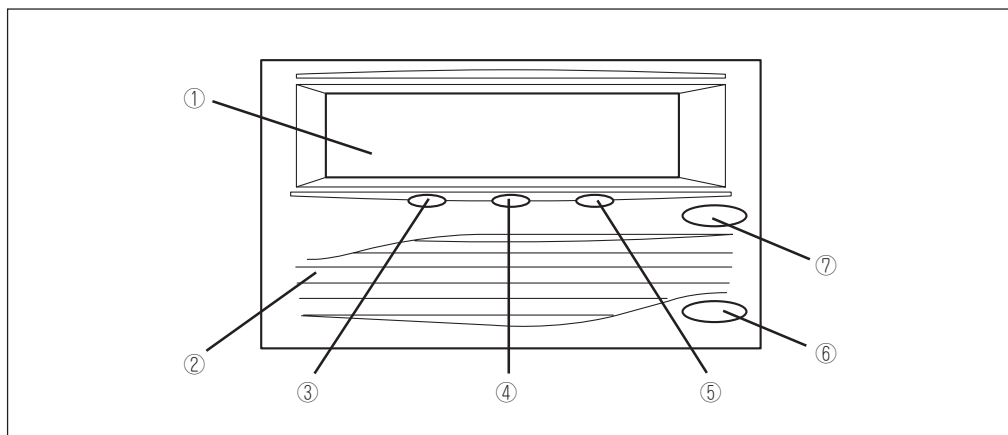
- 「保証書」は大切に保管しておいてください。修理の際に必要となります。
- 梱包材は大切に保管しておいてください。本装置の輸送の際に使用します。



# 各部の名称と機能

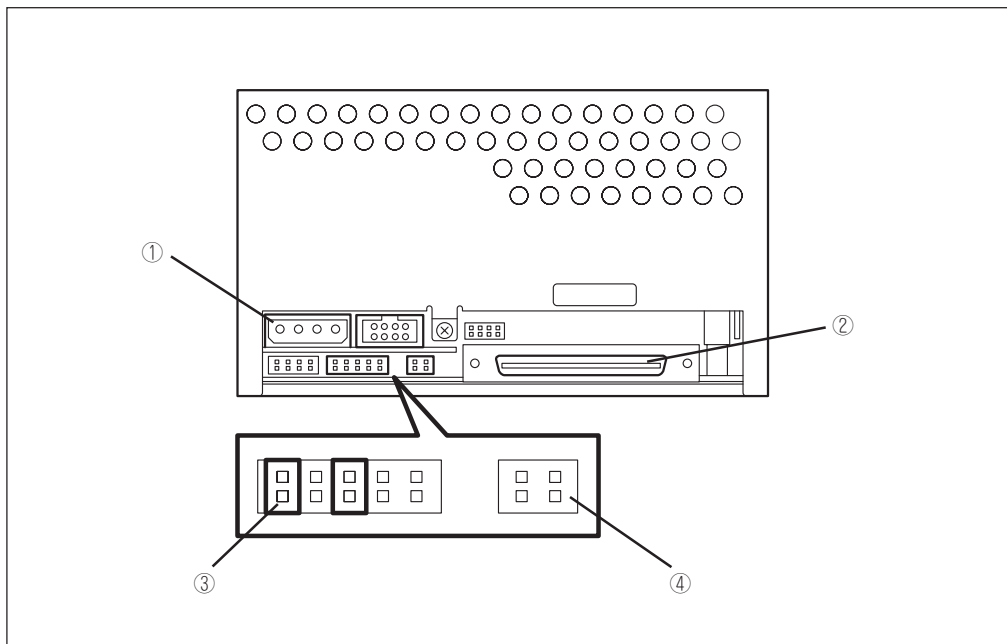
本装置の各部の名称と機能について説明します。

## 装置前面



- ① **カートリッジ挿入口(カートリッジドア)**  
カートリッジを挿入するスロット。
- ② **通風孔**  
装置内を冷却するため、空気を通す孔。
- ③ **Write Protect LED(オレンジ色)**  
データカートリッジの書き込み保護の状態を示すLED。詳細については、5ページを参照。
- ④ **Drive Status LED(緑色)**  
ドライブの状態を示すLED。詳細については、5ページを参照。
- ⑤ **Reserve LED(オレンジ色)**  
このLEDは使用しません。
- ⑥ **赤外線通信ポート**  
この通信ポートは使用しません。
- ⑦ **イジェクト・ボタン**  
カートリッジを装置から取り出すときに押す。6ページを参照。

## 装置背面



### ① DCコネクタ(5V/12V)

本装置に電源を供給するコネクタ。  
取り付ける装置の電源ユニットから出ている電源ケーブル(DCケーブル)を差し込みます。

### ② SCSIコネクタ

本装置を制御させるための信号コネクタ。  
サーバ/ワークステーションなどの基本処理装置の信号ケーブルと接続します。

### ③ SCSI ID設定ジャンパ

本装置のSCSI IDを設定するジャンパ。9ページを参照。  
出荷時は「4」に設定されています。

### ④ ターミネータパワー設定ジャンパ

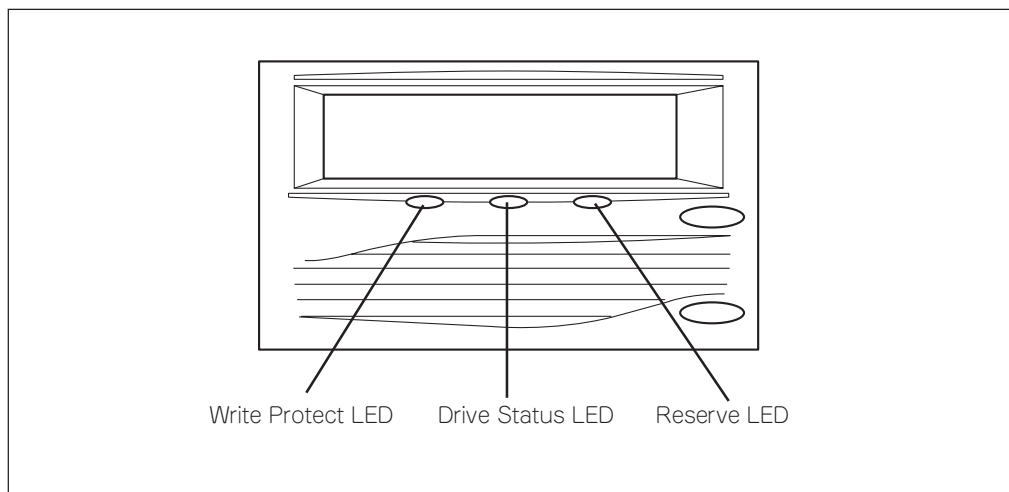
ターミネータパワーの供給を設定するジャンパ。11ページを参照。出荷時は「供給しない」(ストラップ未実装)に設定されています。



- ここで示すスイッチ以外の設定を変更したり、説明していないコネクタにケーブルを接続したりしないでください。また、その他の部品にも触れないよう注意してください。
- 本装置にはターミネータ機能はありません。本装置がSCSI接続の最遠端になる場合は、SCSIケーブルの末端にターミネータを取り付けてください。

## ステータスLED

3つのステータスLEDは、本装置の状態に関する情報を示します。



ステータスLED	状態	意味
Write Protect LED (オレンジ)	点灯	挿入されているテープはライトプロテクトされています。
	消灯	挿入されているテープはライトプロテクトされていません。
Drive Status LED (緑)	点灯	本装置に電源が入っている。
	点滅	本装置が次のいずれかの状態にあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>・テープからデータを読み取っている。</li><li>・テープにデータを書き込んでいる。</li><li>・テープを巻き戻している。</li><li>・テープ上のデータを探している。</li><li>・テープをロードしている。</li><li>・テープをアンロードしている。</li></ul>
Reserve LED		このLEDは使用しません。

---

## イジェクト・ボタン

イジェクト・ボタンを押すとテープが最初まで巻き戻されカートリッジが排出されます。



操作の途中でイジェクトボタンを押すと、本装置は処理中のコマンドを終了し、カートリッジのアンロードと排出を行います。

# 取り扱い上の注意

本装置を正しく動作させるために次の注意事項を守ってください。

---

## 本体について

- 本装置は精密な電子部品でできています。衝撃を加えたり、振動の加わる場所で保管および使用したりしないでください。
- 薬品の蒸気が発散している空気中や薬品に触れる場所で保管および使用しないでください。
- 本装置の電源をOFFにする前に必ずデータカートリッジを取り出してください。
- 本装置に電源を入れたまま移動および輸送をしないでください。
- 本装置の上に重いものを置いた状態で保管および使用しないでください。
- 窓、ファン、およびエアコンの近くまたは通路など風当たりの強い場所に置かないでください。
- むやみにスイッチを押したり、押し続けたりしないでください。
- バックアップアプリケーションによっては、同時に2つ以上インストールされている場合、誤動作の原因となることがあります。詳しくは、バックアップアプリケーションに添付の説明書をお読みください。

---

## データカートリッジについて

- データカートリッジは当社製Super DLTtape I(EF-2425)をご使用ください。当社製以外のデータカートリッジを使用するとリード/ライトエラーの原因となる場合があります。



DLTtape IV(EF-2413G)のカートリッジは、DLT4000、DLT7000、DLT8000フォーマットの場合にデータの読み取りができます。書き込みはできません。

- その他の注意事項については4章を参照してください。

## 装置の譲渡と廃棄について

- 本装置ならびに消耗品、付属品を廃棄の際は、各自治体の廃棄方法に従ってください。
- 本装置を譲渡する場合は、本書を含むすべてのものを譲渡してください。





## 第2章 セットアップ

---

N8151-38 内蔵SDLTをサーバやワークステーションなどの基本処理装置およびデバイス増設ユニットに取り付ける手順について説明します。



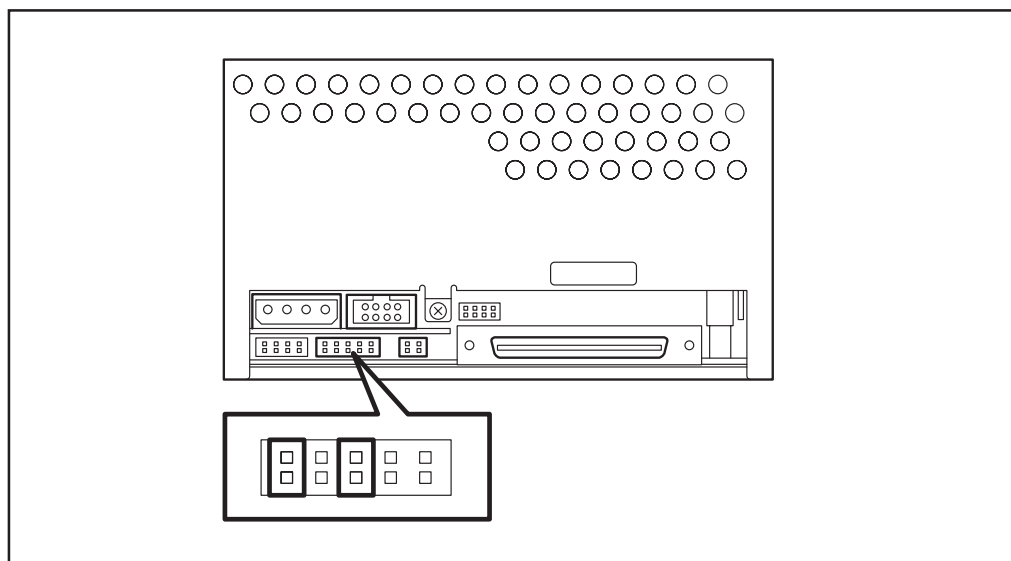
N8151-38 内蔵SDLTを取り付けることができる装置は指定されています。取り付けることができる装置であることを確認してから本装置を取り付けてください。指定以外の装置に取り付けるとエラーや故障の原因となります。取り付けることができる装置については、販売店または保守サービス会社へお問い合わせください。

### Step 1 内部設定スイッチの確認

#### SCSI IDの設定

---

取り付ける基本処理装置のSCSIデバイス構成に併せて本装置のSCSI IDの設定をします。



設定は本装置背面にあるジャンパピンを使います。  
SCSI IDを変更する場合は下表を参照してストラップを付け替えてください(出荷時はID=4に設定されています)。



- 本装置のSCSI IDは0から15の間で設定できます。ホスト側のIDは「7」としてください。
- 一番左側のSCSI IDジャンパピンには必ずストラップを付けてください。



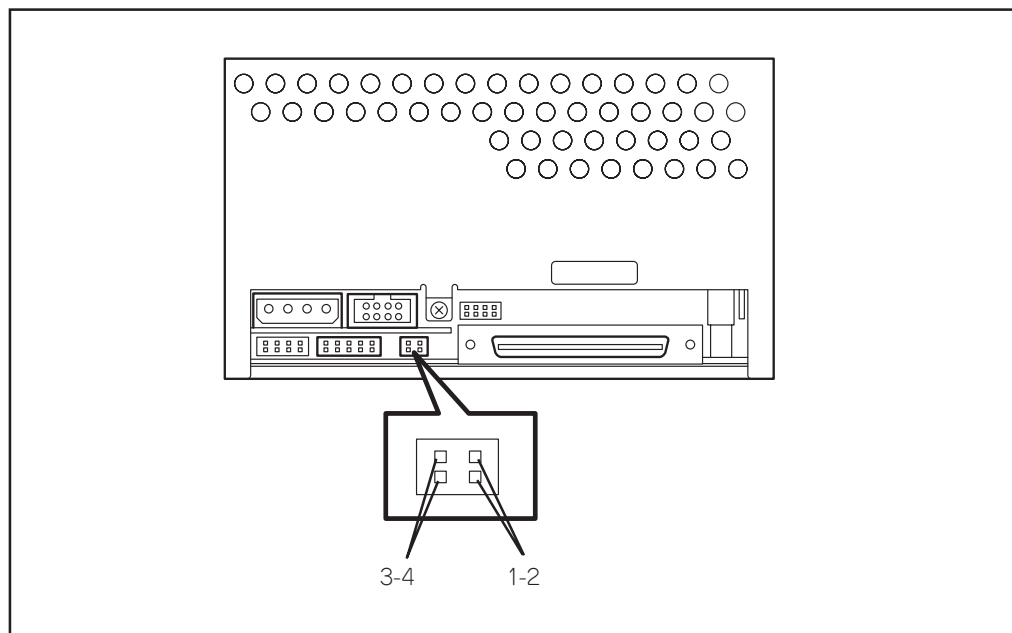
- SCSI IDは、取り付ける装置にあるSCSI BIOSユーティリティやその他市販のユーティリティなどでも設定を変えることができる場合がありますが、本装置では、IDジャンパを使って設定してください。
- 余ったストラップは大切に保管してください。

SCSI ID	SCSI IDジャンパピン	SCSI ID	SCSI IDジャンパピン
0		8	
1		9	
2		10	
3		11	
4		12	
5		13	
6		14	
7		15	

\* ID 7には設定しないでください。

## ターミネータパワーの設定

ターミネータパワー(供給の有無)は装置背面にあるジャンパピンで設定します。出荷時の設定は、ターミネータパワーを供給しない(ストラップ無し)に設定されています。SCSIバスを介してターミネータパワーを外部へ供給する場合にはピン1-2にストラップを取り付けてください。(ピン3-4は未使用ですがストラップは取り付けないでください)



本装置をN8541-28、N8141-28Aデバイス増設ユニット(ラックマウント用)に取り付ける場合は、ストラップを外して(供給しないで)ください。

## Step 2

# 基本処理装置／デバイス増設ユニットへの取り付け

以下に基本処理装置／デバイス増設ユニットなどへの取り付け方法の一例を示します。本装置を取り付ける前に、取り付ける装置の電源をOFFにして、電源コードと背面に接続しているすべてのインタフェースケーブルを取り外してください。また、カバー類を取り外しておいてください(カバー類の取り外し方法については、それぞれの装置に添付の説明書を参照してください)。

### ⚠ 注意



#### 電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本装置の取り付け・取り外しの際やケーブルの接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

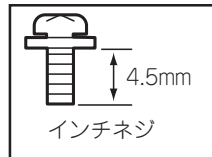


使用するレールや装置への取り付け手順の詳細については取り付ける装置に添付の説明書を参照してください。以下の説明では取り付け手順の一例を示しています。

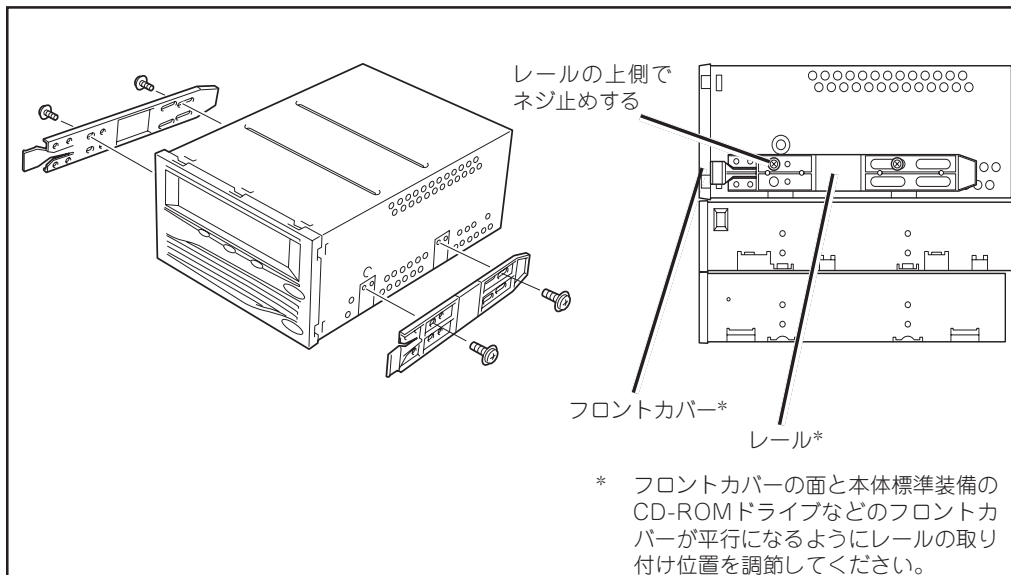
下図のように、ラッチングレールを取り付けます。また、ラッチングレールは上側のネジ穴でネジ止めしてください。



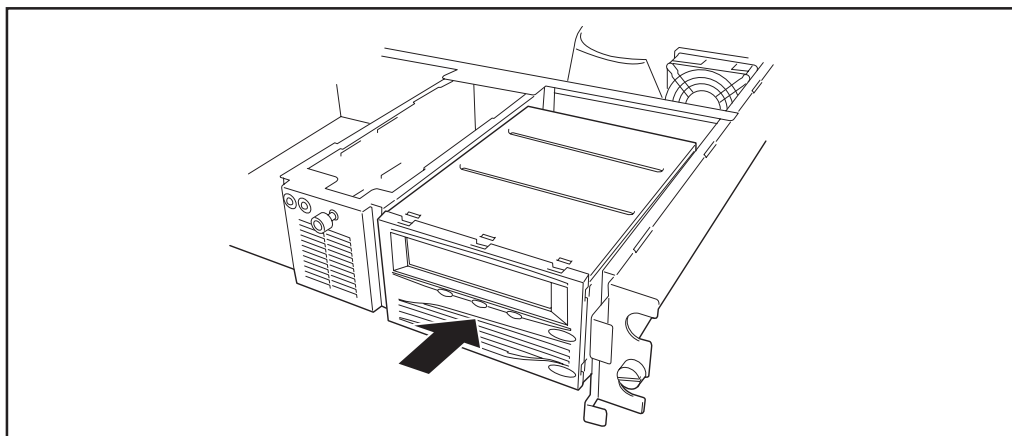
- ラッチングレールは取り付ける装置に添付されているものを使ってください。
- ラッチングレールは必ず本装置に添付されているネジを使って固定してください。本装置に添付のネジは、インチネジ(長さ6.0mm、ワッシャより下の長さ4.5mm)です。添付のネジより長いものを使用すると装置の故障の原因となります。



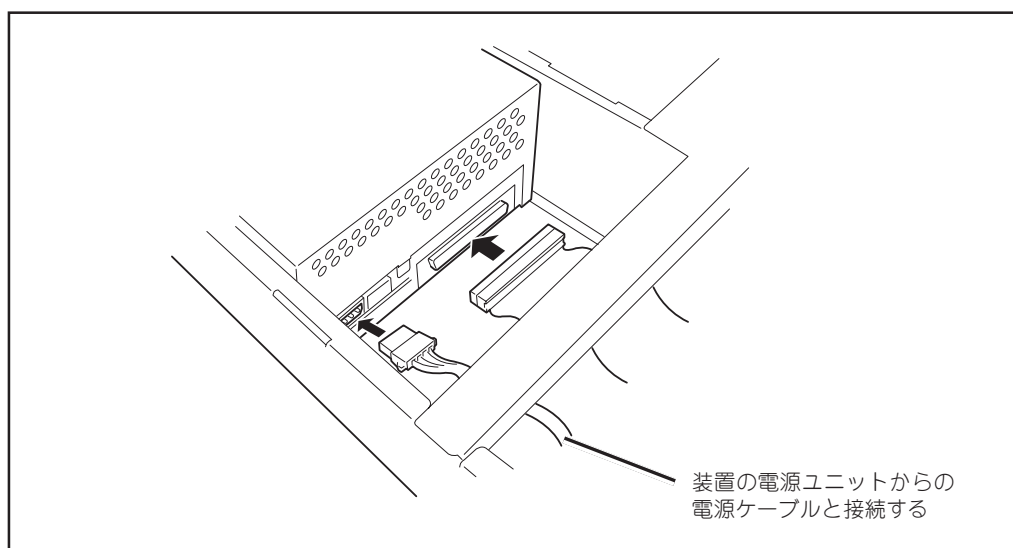
インチネジ



ラッチングレールを取り付けたら、装置に挿入します。



装置に挿入後、電源ケーブル、インターフェースケーブルを接続してください。  
取り付ける装置によっては、本装置を完全に取り付けスロットに挿入する前に接続する場合があります。  
取り付ける装置に添付の説明書を参照してください。



ケーブルの接続を完了したら、取り外したカバー類やケーブル類を取り付けてください。

## Step 3

# BIOSの設定

サーバ/ワークステーションのマザーボード上(またはSCSIコントローラ上)にあるSCSIコントローラのBIOS設定を変更します。設定の変更が必要なものは主に、転送速度の設定やUltra SCSIの機能を有効にする設定などがあります。

- 転送レート: 80MB/秒(最大、同期)
- データバス幅: 16ビット(Wide SCSI)
- DISCONNECT/RECONNECT: 有効

BIOSの設定はボード上のメモリ内に格納されているBIOSセットアップユーティリティ(SCSI Selectなど)を使用します。BIOSセットアップユーティリティの起動方法やパラメータの一覧などについては、基本処理装置またはSCSIコントローラに添付の説明書を参照してください。



同一バス上に接続されているデバイス数およびSCSIケーブル長により、下記のとおり最大転送レートを設定してください。

SCSI	最大転送レート (Mbyte/s)	データバス幅 (bit)	最大ケーブル Single-ended (LVD*)	最大デバイス数 (SCSIホスト+ デバイス数)
Ultra2 Wide SCSI	80	16	12(-)	16
Ultra Wide SCSI	40	16	3 (-)	4
Ultra Wide SCSI	40	16	1.5 (-)	8
Ultra Wide SCSI	40	16	- (3)	16
Ultra Wide SCSI	20	16	3 (3)	16
Wide SCSI	10	16	6 (3)	8

\* SCSIホストおよび同一バス上の全デバイスがLVD対応の場合

以上でセットアップは完了です。

## 第3章 使用方法

---

N8151-38 内蔵SDLTを日常使用する上で知っておいていただきたい操作方法について説明します。

### 電源のON/OFF

本装置の電源は取り付けた装置の電源スイッチ (POWERスイッチ) と連動しています。本装置の電源のON/OFFは取り付けた装置のPOWERスイッチを使用してください。

本装置の電源がONの間、本装置前面のDrive Status LEDが緑色に点灯します。電源がOFFの状態になると消灯します (電源をOFFにするときは、データカートリッジを取り出してから電源をOFFにしてください)。

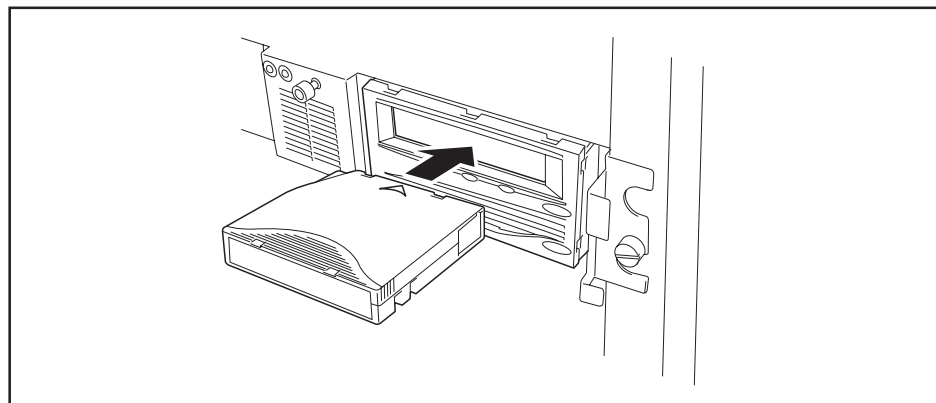


本装置は電源をONにすると自己診断を実行します。

### データカートリッジの挿入

データカートリッジを挿入するには、次の手順で行います。

1. 本装置の電源がONになっていることを確認する。
2. データカートリッジの書き込み禁止スイッチが正しくセットされていることを確認する (18ページを参照してください)。
3. 書き込み禁止スイッチが手前に向くように、カートリッジを持つ。
4. カートリッジ挿入口にデータカートリッジをスライドさせて入れる。



本装置がロード・シーケンスを実行している間はDrive Status LEDが点滅します。



カートリッジを挿入した状態で書き込み禁止スイッチの設定を変更しないでください。カートリッジを挿入したまま変更するとエラーの原因となるおそれがあります。



カートリッジがすでに排出された状態から、そのカートリッジを再度挿入したい場合は、カートリッジをいったん取り出してからもう一度挿入します。

## データカートリッジの取り出し

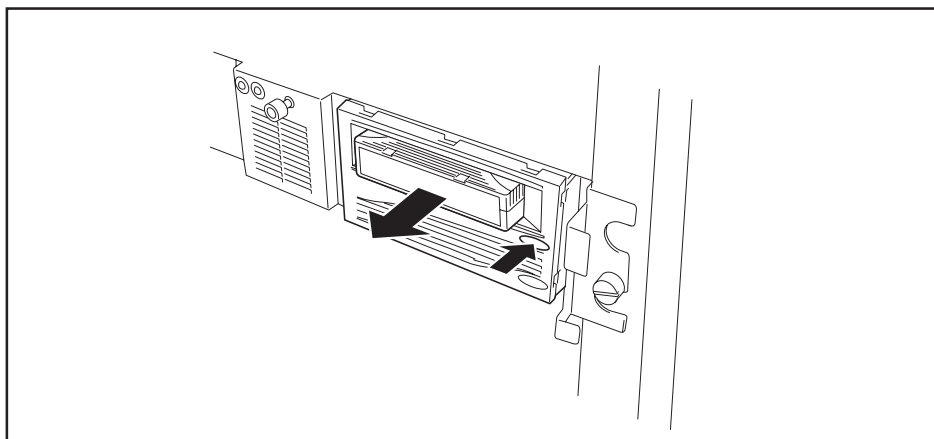


本装置の電源をOFFにする前に必ず本装置の中に入っているカートリッジを取り出してしてください。カートリッジを取り出さないと、カートリッジやテープ・ドライブに損害を与えるおそれがあります。

次の手順でデータカートリッジを取り出します。

1. 本装置の電源がONになっていることを確認する。
2. イジェクト・ボタンを押す。

テープが最初まで巻き戻されカートリッジが排出されます。



3. カートリッジの一部が排出されたら、そのカートリッジを持って取り出す。



## 第4章 データカートリッジ

---

N8151-38 内蔵SDLTで使用するカートリッジテープの取り扱い方法について説明します。

本装置では次のカートリッジを使用します。

- EF-2425 データカートリッジ
- EF-2413G データカートリッジ

本装置の信頼性を保つために、上記以外のカートリッジは使用しないでください。

本装置で使用するカートリッジテープ(型番: EF-2425)は、4インチ(約10センチ)のプラスチック製カートリッジテープです。



**重要** DLTtape IV(EF-2413G)のカートリッジは、DLT4000、DLT7000、DLT8000フォーマットの場合にデータの読み取りができます。書き込みはできません。

---

### カートリッジテープの取り扱い上の注意

記録済みまたは記録されていないカートリッジテープを長持ちさせるために、次の点に注意してカートリッジテープを取り扱ってください。(付録Aも参照してください。)

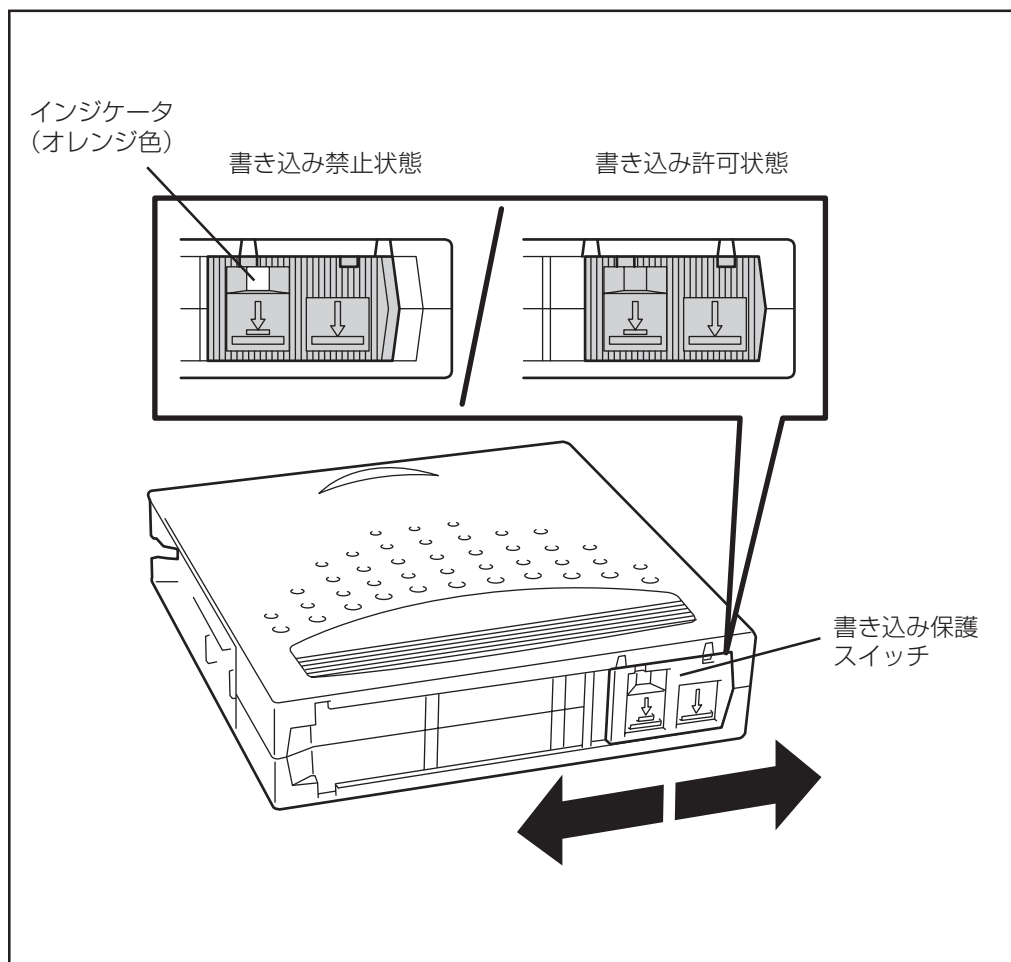
- カートリッジテープを落としたりたいたりしないでください。このようなことをするとリーダが外れ、カートリッジテープが使用できなくなり、本装置自身も損傷することになるおそれがあります。
- カートリッジテープをコンピュータのモニタ、モータ、およびビデオまたはX線を使用する機器など、電磁波による電波障害の発生源の近くには置かないでください。カートリッジテープのデータが損なわれることがあります。
- カートリッジテープは直射日光を避け、ヒータその他の熱源から遠ざけて保管してください。
- データの入ったカートリッジテープは、室内温度18℃～28℃、相対湿度40%～60%(ただし結露無きこと)の、ほこりのない場所で保管してください。
- カートリッジテープは、常に添付のプラスチック保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密封してください。
- ラベルは、カートリッジテープ前面にあるスライドインスロット以外の場所に取り付けしないでください。
- テープを手で触れないでください。また、カートリッジテープのカートリッジドアをむやみに開閉しないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。
- カートリッジテープは専用の保護ケースに入れて保管してください。また、カートリッジテープをケースから取り出すときに、カートリッジテープの取扱説明書やラベルなどがくっついていることがありますのでご注意ください。
- 本装置に挿入するときは、ていねいに取り扱いってください。

## カートリッジテープの書き込み保護スイッチ

カートリッジテープには、データを不用意に消去しないよう、書き込み保護スイッチがついています。カートリッジテープを本装置に挿入する前に、カートリッジテープ前面の書き込み保護スイッチの状態を確認してください。

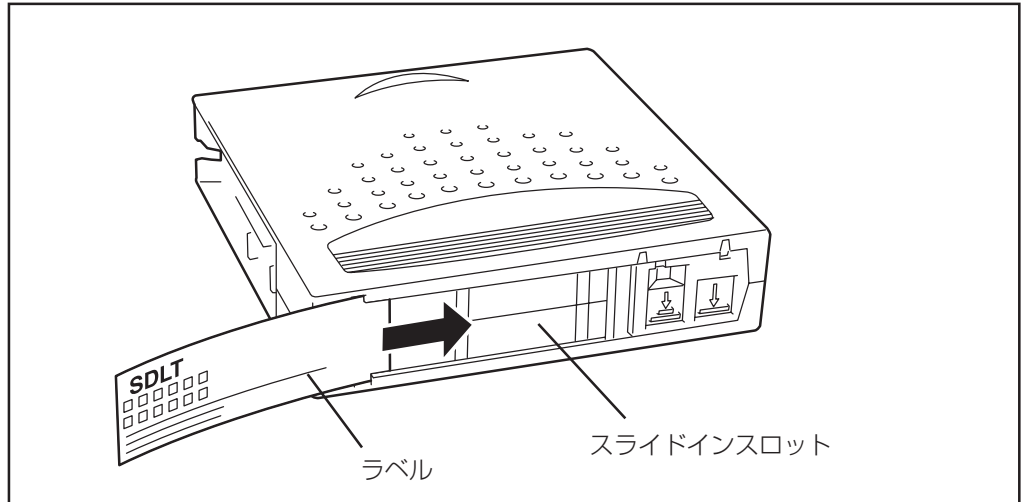
- 左へ寄せると、カートリッジテープへの書き込みが禁止されます。
- 右へ寄せると、カートリッジテープへの書き込みが可能になります。

スイッチを左へスライドさせると、小さなオレンジ色の四角形が見えます。これは、カートリッジテープにデータを書き込みできないことを意味します。



## ラベル／バーコードラベルの取り付け位置

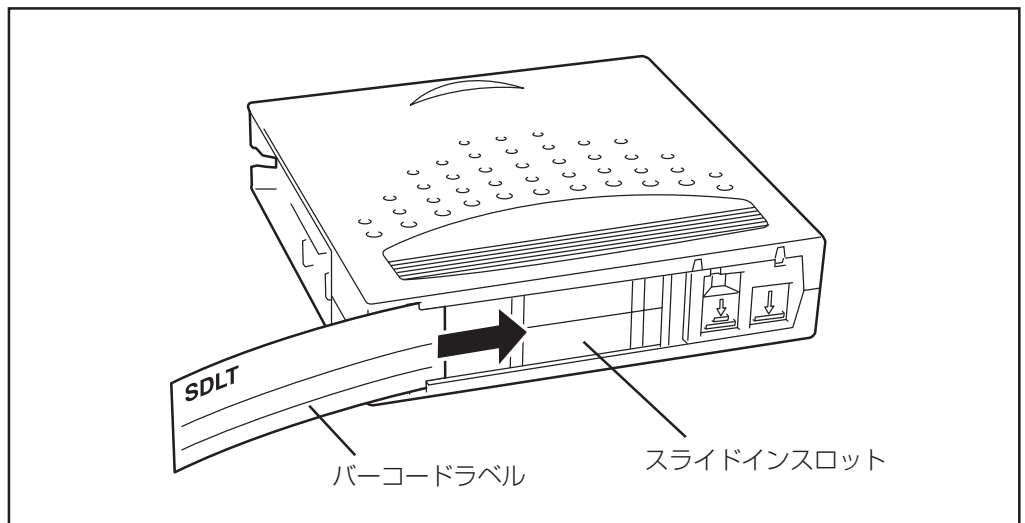
ラベルは、カートリッジテープの前面にあるスライドインスロットに取り付けることができます。カートリッジテープとそのテープに記録されたデータ内容を一目で確認することができますので、必ずデータの内容をカートリッジテープに添付のラベルに記載してからカートリッジテープに取り付けてください。



また、バーコードラベルも同様に取り付けることが可能です。



- バーコードラベルの位置は間違えないよう確認してから取り付けてください。間違えて取り付けの場合は、バーコードラベルを正常に読み込めません。バーコードラベルを取り付ける際の向きは、下図を参照してください。
- バーコードラベルは、必ず、NEC指定のバーコードラベルを使用してください。



---

## 使用禁止基準

次のいずれかの項目に該当する場合は、そのデータカートリッジの継続使用を禁止し、新しいデータカートリッジに取り替える必要があります。

- 落下させるなどの強い衝撃を与え、データカートリッジが損傷を受けた場合
- 清涼飲料、コーヒー、紅茶などの液体、溶剤や金属粉、たばこの灰などで記録面が汚れている場合



上記に示すデータカートリッジを使用するとヘッドや装置を損傷したり、汚したりすることになり、装置の故障の原因となります。また、ヘッドの汚れや損傷に気づかずに、そのまま新しいデータカートリッジを装置に挿入すると、新しいデータカートリッジを汚したり、傷つけたりして被害を広げるおそれがあります。

---

## 寿命

データカートリッジの寿命は使用環境によっても異なりますが、以下を参考にしてください(温度・湿度・塵埃等の使用環境によって、目安より短くなる場合があります)。

- 新しいデータカートリッジを使用するとき、管理番号を割り当て、その番号をデータカートリッジのラベルに記入しておくとい良いでしょう。
- データカートリッジ管理番号台帳を作り、使用日を記録し、データカートリッジの使用年数と使用回数を見積もります。
- 定期的にデータカートリッジの管理台帳と標識ラベルを調べ、手元にあるデータカートリッジが長く使用され、書き込み、読み取りエラーが発生したりして信頼性が低い場合は、データカートリッジを廃棄処分します。

---

## 重要なデータの保存について

重要なデータ、またはプログラムなどを保存する場合には、万一の場合に備えて、正副2巻に保存することをお勧めします。また、保存する際にはバックアップソフトのペリファイ機能を利用し、保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ペリファイ機能の利用方法については、各バックアップソフトの取扱説明書を参照してください。こうしておけば、もし一方のテープがゴミ、または塵埃などによってリードエラーを起こしたとしても、もう一方のテープから復旧でき大切なデータ、およびプログラムの消失を防げます。

---

## データの3世代管理について

ディスク上のデータを保存する場合には、保存されたデータの3世代管理をお勧めします。これはテープを3巻(A、B、C)使用して、1日目はテープAにディスク上のデータを保存したならば、2日目にはテープBに保存し、3日目にはテープCに保存し、A→B→Cと順番にテープ上にディスク上のデータを保存していくものです。こうしておけば、例えば一巻のテープCがリードエラーを起こしたとしてもテープBのデータを使用すればデータは復旧可能であり、また万一、テープBがリードエラーを起こしたとしてもテープAのデータを使用することで大切なデータは復旧可能となります。

---

## データカートリッジの保管について

- 決められた保管条件を守り、保管場所を常に清潔に保ってください。
- 書き込みを禁止にしておくことをお勧めします。
- 長期間にわたって保管する場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、定期的にデータの読み出しを行うことをお勧めします。
- 万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管しておくことをお勧めします。正副2巻のデータカートリッジがある場合には、正、副それぞれを異なる場所に保管しておくとともに効果的です。

## 傷んだテープについて

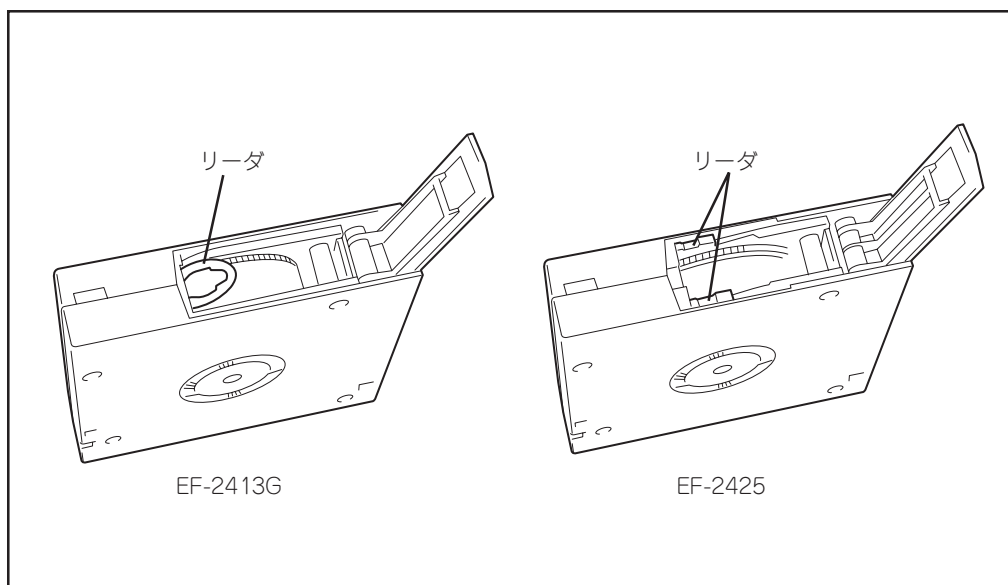
ドライブが繰り返し動作に失敗する場合は、テープが傷んでいる可能性があります。テープを落としたり、傷つけたり、修理の必要のあるドライブで使用した場合、テープを検査する必要があります。

以下を参考にしてテープが傷んでいるかどうかを調べてください。

- リーダが折れたり、外れたり、ずれていないか調べます。
- テープを軽く振ってみて、中の部品が音を立てないか調べます。
- リーダが正しい位置にあるか確認します(次ページの図を参照)。
- リーダが傷んでいないか、切り取られていないか調べます。



以下の手順でリーダーの位置を調べてください。

1. ドアロックを押し込んで、テープドアをリリースします。ドアロックは、書込み禁止スイッチの反対側にあります。
2. ドアロックを抑えながら、ドアロックタブを押してドアを開けます。ドアが開いたら、テープに触れないように注意してください。



## 第5章 日常の保守

N8151-38 内蔵SDLTを常に良好な状態で使用できるようにするための保守の方法について説明します。

 <b>警告</b>	
	<p><b>煙や異臭、異音がしたまま使用しない</b></p> <p>万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本装置に取り付けた装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。</p>

### クリーニング

本装置の外観の汚れは、やわらかい布に水、または洗剤を含ませて軽くふいてください。



ベンジン、シンナーなど(揮発性のもの)の薬品を使用すると、変形や変色の原因となることがあります。また、殺虫剤をかけた場合でも変形や変色の原因となることがありますので、ご注意ください。

### 輸送について

本装置を輸送する場合は、購入時の梱包箱と梱包材で装置を梱包してください。梱包材がない場合は、輸送の際に装置に衝撃を与えないよう緩衝剤などを使って装置を梱包してください。

本装置をサーバ/ワークステーションに取り付けたまま輸送する場合も本装置やサーバ/ワークステーションに衝撃を与えないよう緩衝剤などを使って装置を梱包してください。



データカートリッジは必ず本装置から取り出しておいてください。

~ Memo ~

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## 第6章 故障かな?と思ったときは

本装置の故障を疑う前に次の点について確認してください。あてはまる症状があるときは指示に従って処置してください。それでも正しく動作しないときや、あてはまる症状がないときは保守サービス会社に保守を依頼してください。

### 本装置を取り付けた後、サーバが起動しない

考えられる原因	推奨処置
本装置を他のデバイスが接続された既存のSCSIバスに接続し、しかも本装置のSCSI IDと別のデバイスが使用するアドレスが同じである。	本装置と別のデバイスのSCSI IDが重なっていないか確認してください。
本装置取り付け時にDCケーブルまたはSCSIケーブルをコンピュータのブート・ディスクから切断した。	すべてのデバイスに接続されたケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。

### サーバは起動するが、本装置を認識しない

考えられる原因	推奨処置
DCケーブルまたはSCSIケーブルが正しく接続されていない。	本装置に接続されたケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。SCSIケーブルがLVDS互換であること、曲がったピンがないことを確認してください。必要なら交換してください。
SCSIバスが適切に終端されていない。	SCSIバスがアクティブに終端されているか確認してください。(ご使用のSCSIコントローラや他のSCSIデバイスのマニュアルを参照してください。)
本装置のSCSI IDが固有のIDではない。	SCSIコントローラに接続された各デバイスが固有のSCSI IDを持っているか確認してください。7は通常ホスト・バス・アダプタ用に予約されていることに注意してください。

### アプリケーションが本装置を認識しない

考えられる原因	推奨処置
アプリケーションが本装置をサポートしていない。	バックアップ・アプリケーションの取扱説明書またはウェブ・サイトを参照し、適切なアプリケーションをご使用ください。
ドライバのインストールが必要なアプリケーションがある。	適切なSCSIドライバとテープ・ドライブ・ドライバがインストールされているか確認してください。詳細については、バックアップ・アプリケーションの取扱説明書またはウェブ・サイトを参照してください。

## 本装置が機能しない

考えられる原因	推奨処置
本装置の電源が入っていない場合は、DCケーブルがドライブに正しく接続されていない可能性がある。	DCケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。 別の電源コネクタを試してみてください。 電源が入っているのに、すべてのLEDが消えている場合には、本装置の電源を入れ直してください。それでも解決しないときには、販売店、または保守サービス会社に連絡してください。
セルフテストが失敗した場合には、ハードウェアまたはファームウェアの障害が考えられる。	本装置にカートリッジが入っている場合には、カートリッジを取り出し、本装置の電源を切って、再び入れ直してください。それでもセルフテストが失敗する場合には、販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

## 取り付け後のトラブルシューティング

システムはブートアップ時にデバイスを認識することに注意してください。システムが稼働中に製品を交換したり接続したりするときには、システムをリポートする必要があります。システムをリポートするとデバイスがリセットされ、問題が解決することがよくあります。ドライブを追加したり、ファームウェアをインストールするときには、そのつどシステムをリポートするようにしてください。

## その他の確認事項

上記の確認事項に加えて、本装置の取り付け状態やケーブルの接続状態なども確認してください。また、本書で説明していないスイッチの設定を変えていたり、説明していないコネクタに何かを接続していたりしている場合は、これらを購入時の状態に戻してください。

接続している装置についても確認してください。詳しくは装置に添付の説明書をご覧ください。

## 保守を依頼するときは

修理や部品の交換などで保守を依頼するときは、ランプ表示やホスト装置のイベントログなどの表示内容をメモしておいてください。これらの情報は保守をする際の有用な情報となります。また、巻末の運用状況お客様シートに記載の内容を提出して下さるようお願いいたします。

保守の際には、保証書が必要となる場合があります。併せて用意しておいてください。

# 付録A 仕様

## 装置本体

### ■ データ記憶内容

最大データ記憶容量	110GB (圧縮時220GB*)	EF-2425を使用
-----------	-------------------	------------

\*圧縮効率を2:1としたとき (圧縮効率は圧縮するデータによって異なる)

### ■ 転送速度

データ転送速度(Tape)	11MB/秒 (最大)
データ転送速度(SCSI)	80MB/秒 (同期)、6MB/秒 (非同期)

### ■ 環境条件

状態	周囲温度	相対湿度	最大湿球温度
動作時	10℃～35℃	20%～80%	26℃ (結露なきこと)
保管時	-40℃～66℃	10%～95%	26℃ (結露なきこと)

### ■ 電源仕様

電圧	電流	消費電力
5V ±5%	3.73A(Typ.)/4.25A(Max.)	58.81VA(Max.)
12V ±5%	0.75A(Typ.)/3.13 A(Max.)	

### ■ 寸法・重さ

幅	148mm
高さ	86mm
奥行き	212mm
質量	2.38kg ±0.1kg

# データカートリッジ

## ■ 使用条件

項目	条件
温度	10℃～35℃
湿度	20%～80%（ただし、最大湿球温度を26℃とする）
放置時間	使用および保管環境条件以外の環境にデータカートリッジがさらされていた場合には、使用および保管環境条件以外の環境にさらされていた時間以上（最大8時間）、使用環境になじませてください。温度勾配は10℃/時間とします。

## ■ 保管条件

項目	条件
温度	記録データあり：18℃～28℃ 記録データなし：16℃～32℃
湿度	記録データあり：40%～60%（ただし、最大湿球温度を26℃とする） 記録データなし：20%～80%（ただし、最大湿球温度を26℃とする）
保管条件	データカートリッジは保護ケースに入れてフタをして保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

# 付録B 運用状況お客様記入シート

本装置を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項目	記入欄
取り付けた装置のモデル名	
オペレーティングシステム (OS) (名称、バージョン、サービスパック/パッチの適用状況)	
バックアップアプリケーション (名称、バージョン、サービスパック/パッチの適用状況)	
SCSIバス構成 (SCSI ID/同一バス上のデバイス)	
装置設置環境 (温度、湿度、ホコリの状況など)	
カートリッジ種類 (メーカー名、EF型番)	
カートリッジ使用状況 (使用回数や使用開始月の管理方法など)	
カートリッジの管理状況	

~ Memo ~

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

N8151-38  
内蔵SDLT取扱説明書

2001年8月 初版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号  
TEL (03)3454-1111(大代表)

---

© NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変など行うことはできません。

